

C | O | N | T | E | N | T | S |

【トピックス】「賃金事情」コラム

- 【1】 新型コロナ
- 【2】 職場を考える(61) 【アリバイ仕事】
- 【3】 生き生き施設づくり(52) 【一年目の反省】
- 【4】 信頼のある職場(61) 【新入社員回想】
- 【5】 少年硬式野球チームのコーチと目標管理(71) 【慣れ】
- 【6】 ミミズ

MBO実践支援センターのメールマガジンをお届けします（このメールマガジンは、MBO実践支援センターのメンバーが面識を得た皆さまに、近況報告のつもりで1回/2カ月のペースで送らせていただいています）。ご覧いただければ幸いです。

中嶋 哲夫

【トピックス】

- (1) 「賃金事情」No. 2822（2021. 3. 20発行）のコラム「人事も歩けば」に『小さな抵抗』が掲載されました。

【1】 新型コロナ

このメルマガは、2カ月に1回の発刊です。その度に、新型コロナの状況が変化しています。前号時は、新規感染者が下げ止まったとき。飲食店への時短要請だけでは、新規感染者が減らなくなったとも言われた時期。今は、変異株により、急速に感染が拡大しています。そのなかで、飲食店への時短要請しか手を打たない行政のあり方に、頭の中は？マークでいっぱいです。こんな時期だからこそ、エビデンス・ベースの議論を聞きたいと思えます。

中嶋

【2】 職場を考える(61)

【アリバイ仕事】

職場の問題解決にとって、最も障害になる動きは、筆者が「アリバイ仕事」と名づける仕事の仕方です。それは、「自分がサボっているわけではない」と主張するための仕事。一見、筋道立てて主張され、矛盾はないのですが、問題を少しだけすり替えたり、当事者ではない立場をとりながら、「やってる感」だけは出すという動きです。「自己防衛的で、面倒を避ける仕事ぶり」と言わざるを得ません。アリバイ仕事が多くなると、仕事の総括が難しくなります。打った手とその結果が、はっきりしないからです。問題を回避しているわけですから、結果に変化が生まれようがありません。アリバイ仕事をする人には、悪意はないようです（悪意があれば職場で嫌われます）。しかも、反対意見を言うわけでもありません。このため、職場の問題児にもなりません。話を聞いて、「ごもつとも」と、こちらが、うかつに賛成することもあります。それだけに、職場の問題解決にとっての大きな障害（時間の浪費）です。アリバイ仕事をするくらいなら、きちんとした反対意見を述べる人の方が、頼りがいがあります。

中嶋

【3】生き生き施設づくり(52)

【 1年目の反省 】

昨年1月、コロナ感染が始まったのとほぼ同じ時期の東京都内に開所した介護施設が2年目に入ります。介護施設の1年目は、その施設らしいサービスの在り方をチームで作っていく時期にあたります。施設オープンに参集しスタッフは数十名、バックグラウンドはさまざまです。そのメンバーが日々現場で試行錯誤するなかで、うちの施設が掲げる介護の理念とは何かを共有していこうとしはじめた矢先。4月に緊急事態宣言が発出され、施設内の生活の質を維持することと感染を防止することを念頭に手探りで、想定していたサービス方法を作り直す必要に迫られました。スタッフだけでなく、利用者もコロナ禍の被害者でした。入居したばかりで新しい生活環境に慣れなくて、ストレスが昂じるのをやわらげてくれる家族との面会は中止せざるを得ず、日常を受け止める介護のスタッフはコロナ対応で奔走しているため、不安を訴える利用者が続き、その特例対応でますます場当たりの対応をならざるを得なかった1年でした。2年目に入り、コロナ禍終息の兆しは依然見えませんが、施設内感染防止のやり方も少しずつわかってきましたし、もうじきワクチン接種も始まります。日常の家族面会や行事を取り戻していきつつ、介護スタッフや看護スタッフ、ケアマネ、管理栄養士など多種の専門家が目的を共有し、密なコミュニケーションでこの施設らしいサービスを作っていく年にしたいと取り組みを始めています。

パートナー・三宅敬司

【4】信頼のある職場(61)

【 新入社員回想 】

街角で新入社員らしき若者の姿を目にします。コロナ以前は季節の風物詩だったのが、初めての緊急事態宣言が発出された去年はその姿が街から消え、1年経って少し戻ってきたように感じます。私が、ある教育出版社のほやほやの新入社員だったとき、会社が新企画の全集ものを刊行しました。同時に、社員に対しても割引価格で本が届けられる優良条件で購入を勧めたのに対して、日報に否定的な意見を書いたのを覚えています。読みたいのなら正価で買うべし、価値には相応額を払うことが出版文化を支える、書店に行つて買うことが販促になる…そんな小生意気な内容だったと思います。翌週、営業部の次長から便せん数枚のお手紙をいただきました。社内販売キャンペーンの主旨を説明したものでした。内容は忘れましたが、私の生硬な意見を否定するものではなく、会社の考えをわかりやすく教示してくださいました。その間、1週間足らず。会ったこともない他の部門の幹部が、一介の新入社員の日報に伝えてくれたわけです。当時社員数は1,000人くらいだったと思います。社長は全社員の日報を読みました。おそらく日報を読んだ社長が、営業部に“説明してあげなさい”と回付し、こういう対応になったものと思います。メールはなく紙の書類の時代。社内の組織を、1枚の書類がスピード感としては即レスに近い速さで流通して、私のもとにフィードバックが届いた、その風通しの良さと丁寧に扱ってくれたことに感動したことを、街の新入社員らしき若者の姿を見て思い出しました。

パートナー・三宅敬司

【5】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(71)

【 慣れ 】

球春到来！春の選抜高校野球大会が様々な工夫により、何とか無事に開催され、少しずつコロナも収束に向かっていくのであろうか？ と考えていた矢先に、変異株による第四波。近頃は部活動についても休止などの動きも出てきており、リトル

リーグの運営サイドとしても、どのように活動していくべきなのか？頭を悩ませております。

人々が学習して、感染しないように行動しているとは思いますが、「緊急事態宣言」とか「まん延防止等重点措置」という言葉がマスコミを通じて何度も何度も繰り返され、人々は慣れてしまい、危機感が薄れているようにも思えます。悪い意味での「慣れ」でしょうか？

「慣れ」は全てにおいて悪いとは言えませんが、初心に帰る、危機感を持つ、ということが継続しなければ大きな怪我をしてしまいます。

硬式ボールを使ったリトルリーグでは練習することで野球の技量が上達するのと同時に、「慣れ」も出てきて、ボールに対する怖さが消えて、積極的なプレーにつながる良さもあるが、危機意識が無くなり、怪我に繋がることも多々あります。

だからこそ、様々なルールや防具が存在しており、ヘルメットを着用しなければ打席に立つこともできませんし、投手の投球数の規定やバットの反発係数（飛び過ぎないように）の見直しなど、改善工夫がなされております。

新しいルールができるたびに、指導者や選手は色々と不満を漏らしたりはしますが、全ては競技者の安全性や永続性のためにあるのだと私は考えて、「慣れ」を改める機会としてとらえております。

子ども達にも飛ばないバットでホームランを打つにはどうしたらよいか？ヘルメットを被らずに頭にボールが当たると死んでしまうことも考えられるということや、常々伝え続け、単なる慣れにならぬようなルール変更時にはチャンスと捉えて、危機感を醸成し続けております。（実際は監督さんを通じますが）

今、コロナ禍において、ルールや防具があるような無いような・・・

これでは悪い意味での「慣れ」により、怪我をする方向に向かうのではないのでしょうか？ マスクにワクチンという防具を増やしつつ、ルールを作らねば怪我に繋がってしまいそうですね。

皆様の職場では悪い意味での「慣れ」はないですか？

私自身、結婚して30年が経過し、家庭内の「慣れ」により、時折大怪我をしております。（笑）

妻への感謝の言葉！（防具）は必須ですね！！！！

イケメンコーチ

【6】ミミズ

畑を耕すと、ミミズがたくさん出てきます。蟬の幼虫やダンゴムシなども、数え切れないくらい出てきます。そのなかで、ミミズは大事な動物。腐りかけた植物を食べ、消化し、糞に変えて豊かな有機物のある畑を作ってくれます。このため、畑のなかからミミズが出てくると、筆者は大喜び。同時に喜んでるのが、ツグミや烏などの野鳥。筆者が畑から退出すると、すぐにやってきて、ミミズを掘り出して餌にします。生きているミミズを啄みますから、残酷です。食物連鎖は残酷な世界です。

畑を耕していると、人間が、他の生物の命をいただきながら生きていることを能く感じます。鈴木大拙がいう「日本的霊性の大地性」に触れているのかも知れません。

中嶋

◆◇MBO(目標管理)実践支援センターの考え方

MBO(目標管理)実践支援センターはMBO(目標管理)を組織内で展開するためのノウハウを蓄積し、人事担当者に提供するためのセンターです。営利事業と非営利事業を組み合わせてこの機能をはたしていくつもりです。

<http://www.mbo-mcp.com/>



編集・発行／MBO(目標管理)実践支援センター

代表／中嶋哲夫 <http://www.mbo-mcp.com/>

事務局／(株)MC&P TEL:06-4706-3311

●最後までお読みいただきましてありがとうございます。

このメールマガジンは、センターの講師陣が出会った方々に感謝の気持ちを込めて送らせていただいています。
もし、ご関心のない場合には、ご面倒ですが解除の手続きをお願い申し上げます。

●このメルマガを読んでもらいたいお知り合いを是非ご紹介ください。

●投稿または配信停止を希望される場合は、
下記「お問い合わせフォーム」にて、「MBO投稿」または「MBOメルマガ配信停止希望」とご記入の上、送信願います。
<https://secure.mcp.co.jp/contact.html>

●このメールアドレスは配信専用となっております。
返信いただいても対応はいたしかねますのでご了承ください。
ご連絡は下記のアドレスまでお願いいたします。
mbodoor@mbo.mcp.co.jp

※本メールの無断転載・複製を禁じます。